

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p>【自ら学ぶ生徒を育む学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を伸ばす学校。 <p>【豊かな心を育む学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感を伸ばし、互いが尊重され、自立心が育まれる学校。 <p>【地域が誇れる学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA、開かれた学校づくり協議会、地域と連携し生徒の健全育成を図る学校。
○児童・生徒像	<p>【自ら学ぶ生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなことに興味・関心をもち目標をもって主体的に学ぶ生徒。 <p>【協力しあう生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識をもち、自らを律することができる生徒。 <p>【健やかな生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を意識し、体力向上に努める生徒。
○教師像	<p>【実践力、指導力のある教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生活指導などに向上心をもち、高い指導力を発揮する教師。 ・保護者や地域との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師。 <p>【情熱ある教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の気持ちに寄り添い、親身で指導にあたる教師。 ・教育環境の変化に柔軟に対応できる教師。 <p>【生徒、保護者、地域から信頼される教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性を理解し、良さを伸ばすことのできる教師。 ・服務規律を遵守し、職務を遂行する教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

統合3年目を迎えるが、生徒たちは日々学習、行事、委員会活動、部活動に精力的に励んでいる。また、授業規律をしっかり創ることができ、大きな問題行動もなく、落ち着いた学校環境が維持できている。前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着について。日ごろの学習指導、学力向上策により区学力調査結果では目標値に達した。しかし、不安材料が学年、教科によってみられるのでその補強に力強く取り組む必要がある。
- ② 不登校対策については、毎週委員会を開き、管理職やSC、SSWも交えて生徒一人ひとりの状況把握と今後の対策を検討し、それに基づく指導や対応を組織的に行ってきた。その結果は一進一退を繰り返す生徒委が多く、教室復帰へのハードルはなお高いと感じる。また、SC、SSWとの面談や家庭訪問、また関係機関とのつながりなど何らかの社会的接点を維持しながら改善を図ってきた。一方、今年度からの大きな変化として次の2点をあげる。
 - ① コミュニケーションの教室が開設されることを機に、生徒たちのよりスムーズなコミュニケーション能力の育成を図り、学習指導、学校生活の改善につなげていく。
 - ② また、働き方改革が本格的に始まるが、区のガイドラインにそって職員の心身の健康づくりを進め、充実した教育活動を行っていく。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	2	3
1	授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。	○	○	○	○	○
2	不登校など学校不適応症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。また、コミュニケーションの教室の活用を始める中でより効果的な指導方法を検討していく。	○	○	○	○	
3	学習指導を中心とする小中連携事業を充実させると同時に、透明性の高い経営を心掛け、新校舎完成を機に地域とのつながりをさらに深め、学校への信頼や期待を高めていく。	○	○	○		

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。	
A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標	
全生徒の基礎学力の底上げを図り、区学力調査の通過率を引き上げる。	61.0。年度末に区学力調査を活用して成果を検証する。到達目標は61.0。	
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
基礎学力定着のための総合的な学習指導。	学習意欲と学習習慣を向上させるベーシックタイムや学習コンテストの実施。学力向上を図るための授業改善。	
基礎学力定着のための個別指導。	放課後学力補充タイムの充実	
主体的・対話的な授業づくりと足立スタンダードの推進。	スタンダードを踏まえた授業観察での指導案づくりや校内研修での啓発指導。	
C 前年度の成果と課題		
<p>国語、数学、英語については授業やその前後での指導や小テスト、朝ベーシックと放課後補充、学習コンテストなど多彩な角度から基礎学力の定着に取り組み、その成果も出ている。また、その他の社会、理科も朝ベーシックに組み込み、小テストも継続的に行うことで学習の定着を図る工夫を行ってきた。一方、実技教科も含めて、全教科、全教員が学力向上アクションプラン作成に加わり、学校全体で計画的に学力向上に取り組んでいる。課題としては、学習意識の低い生徒、家庭学習習慣のない生徒の意識をどう高めていくかという点である。根気強く学校全体の意識高揚を図って学力向上に取り組んでいく。また、ICTの積極的な活用を進め、今年度は教員へ配布されたタブレットを使った授業実践を全校的に行う。</p>		
D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－2	不登校など学校不適応症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。また、コミュニケーションの教室の活用を始める中でより効果的な指導方法を検討していく。
-------------------	---

A 今年度の成果目標		達成基準
大きな問題行動がなく、落ち着いた学校環境を維持する。また不登校生徒への対応を丁寧に行い、社会的接点を維持しながら一歩ずつ状況の改善を図っていく。		大きな問題行動はゼロ。何らかの社会的接点を保ちながら、状況改善が図れた生徒の割合を不登校生徒全体の80%以上。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
いじめや大きな問題行動対応	大きな問題行動ゼロ。いじめ事案の100%解決。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自のいじめアンケート（毎月）実施 ・迅速な聞き取りと指導を対策委員会の指揮下で実施。
不登校の未然予防と対応	新たな不登校生徒の出現率は全校生徒の3%以内。	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶり状態からの早めの対応。 ・SC, SSWと連動して原因を早く捉え、登校できる環境づくりを進める。

重点的な取組事項－3	学習指導を中心とする小中連携事業を充実させると同時に、透明性の高い経営を心掛け、新校舎完成を機に地域とのつながりをさらに深め、学校への信頼や期待を高めていく。
-------------------	---

A 今年度の成果目標		達成基準
地域小学校から入学する生徒の高い割合を維持する。また、地域行事でのボランティア活動への高い参加率を維持する。		地域小学校からの平均入学率65%。また、延べ220名を越えるボランティア活動参加生徒。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学習の接続を図り、中1ギャップの解消を目指した小中連携事業の推進	地域小学校からの平均入学率65%	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の合同研修会および中学校体験入学などの実施 ・小中共通の足立スタンダードに基づく授業研究の実施。
地域行事でのボランティア活動	延べ220名を越えるボランティア活動参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への生徒ボランティア活動の積極的な参加と行事での児童など異年齢交流の活性化。